

# 地方創生に向けた 未来技術活用

2024年 9月20日

内閣府 地方創生推進事務局

参事官 真田 晃宏



内閣府

## 総合戦略(2027年度までの5か年計画)の基本的考え方

- ▶ 「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」を目指す。
- ▶ デジタルの力を活用して地方創生を加速化・深化し、各地域の優良事例の横展開を加速化する。
- ▶ これまでの地方創生の取組についても、改善を加えながら推進する。

## 施策の方向

### 地方の社会課題解決

- ① 地方に仕事をつくる
  - ・ 中小・中堅企業DX、地域の良質な雇用の創出等、スマート農業、観光DX等
- ② 人の流れをつくる
  - ・ 移住の推進、関係人口の創出・拡大、地方大学・高校の魅力向上等
- ③ 結婚・出産・子育ての希望をかなえる
  - ・ 結婚・出産・子育ての支援、少子化対策の推進等
- ④ 魅力的な地域をつくる
  - ・ 地域生活圏、教育DX、医療・介護DX、地域交通・物流・インフラDX、防災DX等

### 国によるデジタル実装の基礎条件整備

- ① デジタル基盤の整備
  - ・ デジタルインフラの整備、デジタルライフライン全国総合整備計画、マイナンバーカードの普及促進・利活用拡大等
- ② デジタル人材の育成・確保
  - ・ デジタル人材育成プラットフォームの構築、職業訓練のデジタル分野の重点化、高等教育機関等におけるデジタル人材の育成等
- ③ 誰一人取り残されないための取組
  - ・ デジタル推進委員の展開、デジタル共生社会の実現等



## 政策間連携・施策間連携・地域間連携の推進

### (政策間連携)

- ・ デジタル行財政改革会議における議論の進展や、「デジタル行財政改革中間とりまとめ」なども踏まえつつ、規制改革を始めとする政策と連携しながら、一体的に推進等

### (施策間連携)

- ・ 各省による重点支援や地方支分部局の活用等による伴走型支援等を通じて、地域が目指す将来像の実現を支援等

### (地域間連携)

- ・ 自治体間連携の枠組みにおけるデジタル活用の取組を促進等

# 「地方創生10年の取組と今後の推進方向」の概要

令和6年6月10日  
内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局  
内閣府地方創生推進事務局

## 地方創生10年の取組・成果

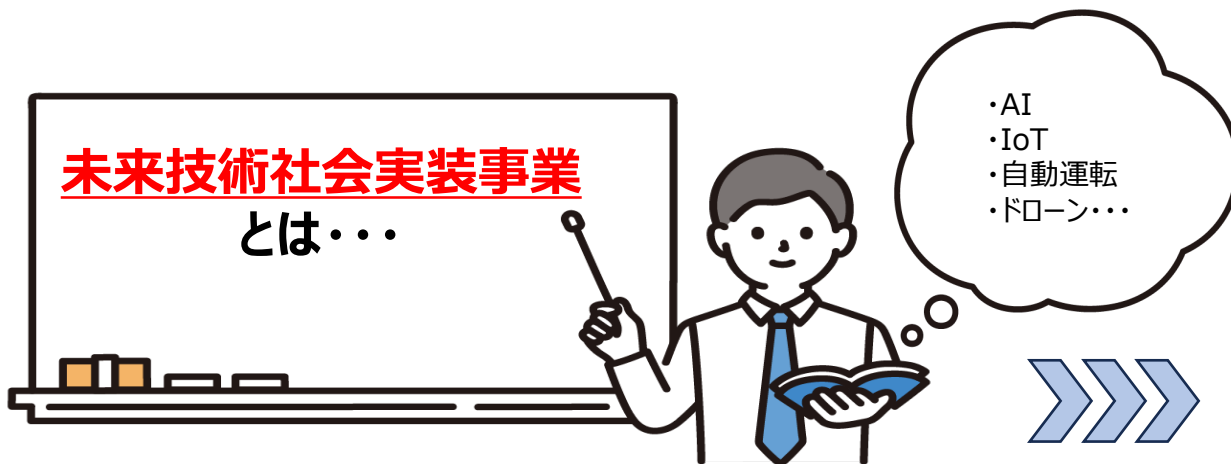
- |   |  |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>地方創生に関する地域の関係者の意識・行動の高まり</li> <li>各自治体による主体的な取組の推進（財政支援、人材支援、情報支援の活用）</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>地方移住への関心の高まり、移住者数の増加</li> <li>人口に係る一定の成果 等</li> </ul> |
|---|--|

## 残された課題、新たな課題と今後求められる取組方向

- |  |  |
|--|--|
| <p><b>(1)東京圏への過度な一極集中への対応</b></p> <p>→ <u>地方移住、企業の地方移転、地方大学・高校の魅力向上に加え、女性・若者にとって魅力的な地域づくりや、その他、男女間・地域間の賃金格差など、東京圏への過度な一極集中をもたらした諸要因を踏まえた検討、中枢中核都市等におけるゲートウェイ機能の向上、防災・減災、国土強靱化の取組の強化、分散型国づくり等との連携など</u></p> <p><b>(2)少子化への対応</b></p> <p>→ <u>結婚や子どもを持ちたい希望をかなえるための政策を、特に未婚者を多く抱える大都市も含め、スピード感をもって実行、社会全体で子ども・子育て世帯を応援していく気運を高めていくための社会の意識醸成など</u></p> <p><b>(3)地域の生産年齢人口の減少への対応</b></p> <p>→ <u>仕事と子育ての両立が可能な働き方の確立、高齢者や障害者も安心して働くことができる雇用環境の整備、多様性のある共生社会の実現に向けた検討など</u></p> <p><b>(4)地域資源を生かし、付加価値を高める産業・事業の創出</b></p> <p>→ <u>地域資源の掘り起こし等に必要な生産者や中小企業に対するサポート、産業活性化と拠点施設等の一体的な整備による地域の稼ぐ力の向上、地域経済の内発的な活性化、海外製造業を含めた国内投資の促進に向けた関連インフラを含めた総合的な支援など</u></p> | <p><b>(5)地域における日常生活の持続可能性の低下などへの対応</b></p> <p>→ <u>デジタルの活用や官民連携による日常生活に必要なインフラ・サービス(交通支援、買物支援、オンライン診療等)の強化、デジタル行財政改革との連携など</u></p> <p><b>(6)都市部と地方との連携機会の拡大</b></p> <p>→ <u>農山漁村等での体験活動、地方における定住人口や交流人口の増加に向けた取組の推進、デジタルも活用した関係人口の増加に向けた取組の推進など</u></p> <p><b>(7)大規模災害被害からの創造的復興に向けた貢献</b></p> <p>→ <u>能登半島の被災地におけるデジタルライフラインの整備など</u></p> <p><b>(8)地方創生の取組に悩みを抱える自治体へのきめ細やかな支援</b></p> <p>→ <u>オンラインも活用した自治体への人材支援、小規模自治体など伴走支援を必要とする自治体に対し、地方支分部局を含め、関係府省庁が連携したサポートの推進など</u></p> <p><b>(9)地方創生の取組を加速化・深化するデジタル活用の更なる拡大</b></p> <p>→ <u>自治体のデジタル実装の質的向上、国と地方の実装の役割分担(作り込みから使いこなし)、デジタル実装の優良事例の掘り起こしとサービス/システムのカatalog化による発注コスト低減・横展開、環境や循環経済の効果可視化、障害者等に優しいコミュニケーション支援など</u></p> <p><b>(10)地域・社会課題の解決に向けた規制・制度改革</b></p> <p>→ <u>国家戦略特区の取組の推進と成果の全国展開、地理的に離れた自治体が連携して共通の課題に取り組む「連携“絆”特区」の推進など</u></p> |
|--|--|

※「地方創生10年の取組と今後の推進方向」の概要より抜粋  
<https://www.chisou.go.jp/sousei/meeting/chisoudecade/index.html>

**未来技術社会実装事業について**  
**～内閣府の行う自治体支援事業とその全国事例について～**

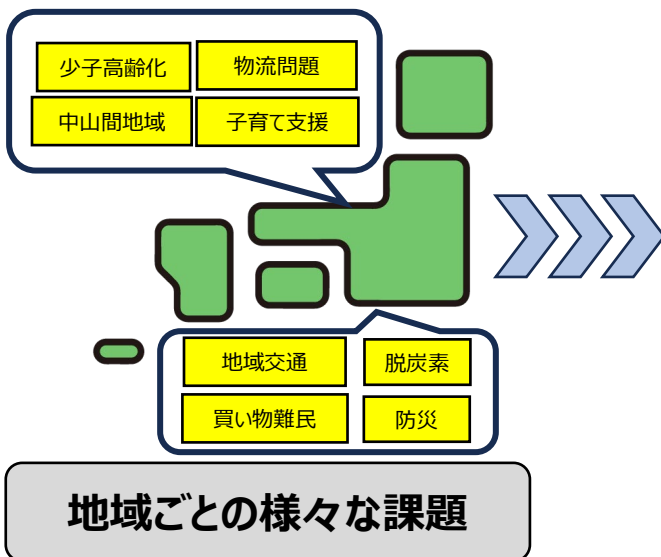


**未来技術**を活用して  
**地域課題の解決**を目指す  
**自治体を支援**する事業

① **未来技術を活用して**  
**地域課題を解決**したい

② **関係府省庁による**  
**伴走型支援**を実施

③ **3～5年での**  
**社会実装**を目指す



# 日々の生活の中で こんな悩みはございませんか？

## 【地域交通】

地域公共交通をより  
活性化・持続化したい



## 【観光誘客】

地元の魅力をもっとPRしたい

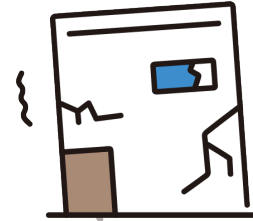


## 【中山間地域】

中山間地域への  
物流を確保したい

## 【防災】

災害時の対応を  
強化したい



## 【福祉】

子育て  
地域高齢化



etc...



その課題、**未来技術**を使って解決しませんか？

### <内閣府による支援内容①>

#### 現地支援体制（地域実装協議会）の構築

- ・関係府省庁を地域実装協議会の構成員として選定
- ・関係府省庁の中から現地支援責任者を選定

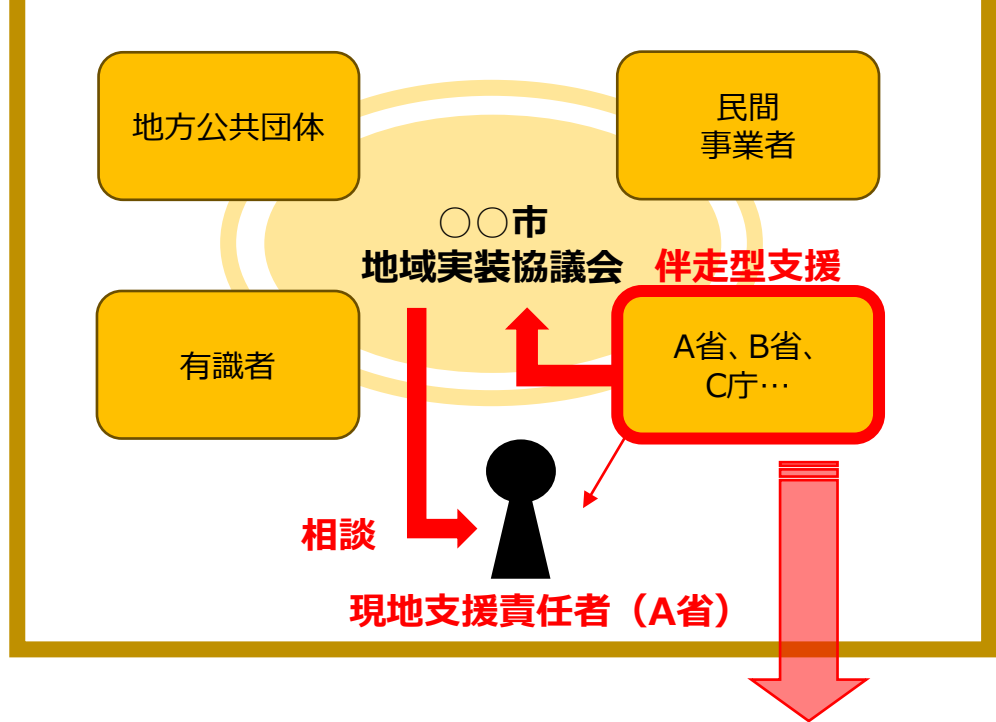


メリット！



- ・事業事務の簡素化
- ・関係府省庁が有する知見をもとに**助言がもらえる**
- ・現地支援責任者がワントップ窓口となっていることから、**問合せ先に悩まなくて済む**

#### イメージ図



#### 関係府省庁の例

※事業内容に応じて内閣府で選定します。

- |       |        |         |
|-------|--------|---------|
| ・内閣府  | ・文部科学省 | ・環境省    |
| ・内閣官房 | ・厚生労働省 | ・デジタル庁  |
| ・警察庁  | ・農林水産省 | ・こども家庭庁 |
| ・金融庁  | ・経済産業省 |         |
| ・総務省  | ・国土交通省 | など      |

## <内閣府による支援内容②>

### 内閣府の主な取り組み

#### 関係府省庁との調整

- ・構成員の選定
- ・各府省庁への取次、依頼
- ・情報収集



#### 補助金情報の提供

各府省庁の補助金情報を取りまとめ、年度末に周知



#### メールマガジンの配信

- ・国の最新動向
- ・国内外の最新事例
- ・選定団体の取組成果など



#### 交流会・講習会の開催

- ・先進事例の見学
- ・有識者の基調講演
- ・意見交換会



### 未来技術社会実装事業に選定される【メリット】

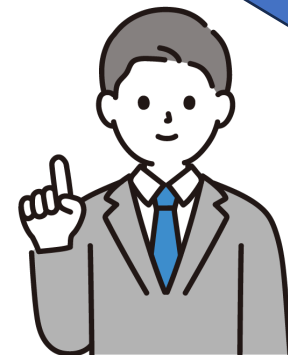
- ・国への相談が容易にできるようになる
- ・省庁横断的な支援により、複数事業を一体的に支援してもらえる
- ・期間 **3～5年**の中期的な支援を受けられる

- ・年度当初に活用可能な補助メニューがわかる
- ・省庁別、活用技術別に記載があるため、事業に適した補助金の情報が得られる

- ・他省庁の補助金情報をタイムリーに情報収集が可能
- ・法改正などの情報がわかる
- ・他地域の実証実験等の情報が得られる

- ・先進事例の紹介により、事業への取り組み方などがわかる
- ・選定自治体同士の交流により、素直な意見交換ができる

メリット!





# 未来技術社会実装事業の実績 (R6.8時点 56自治体支援※継続中22自治体)

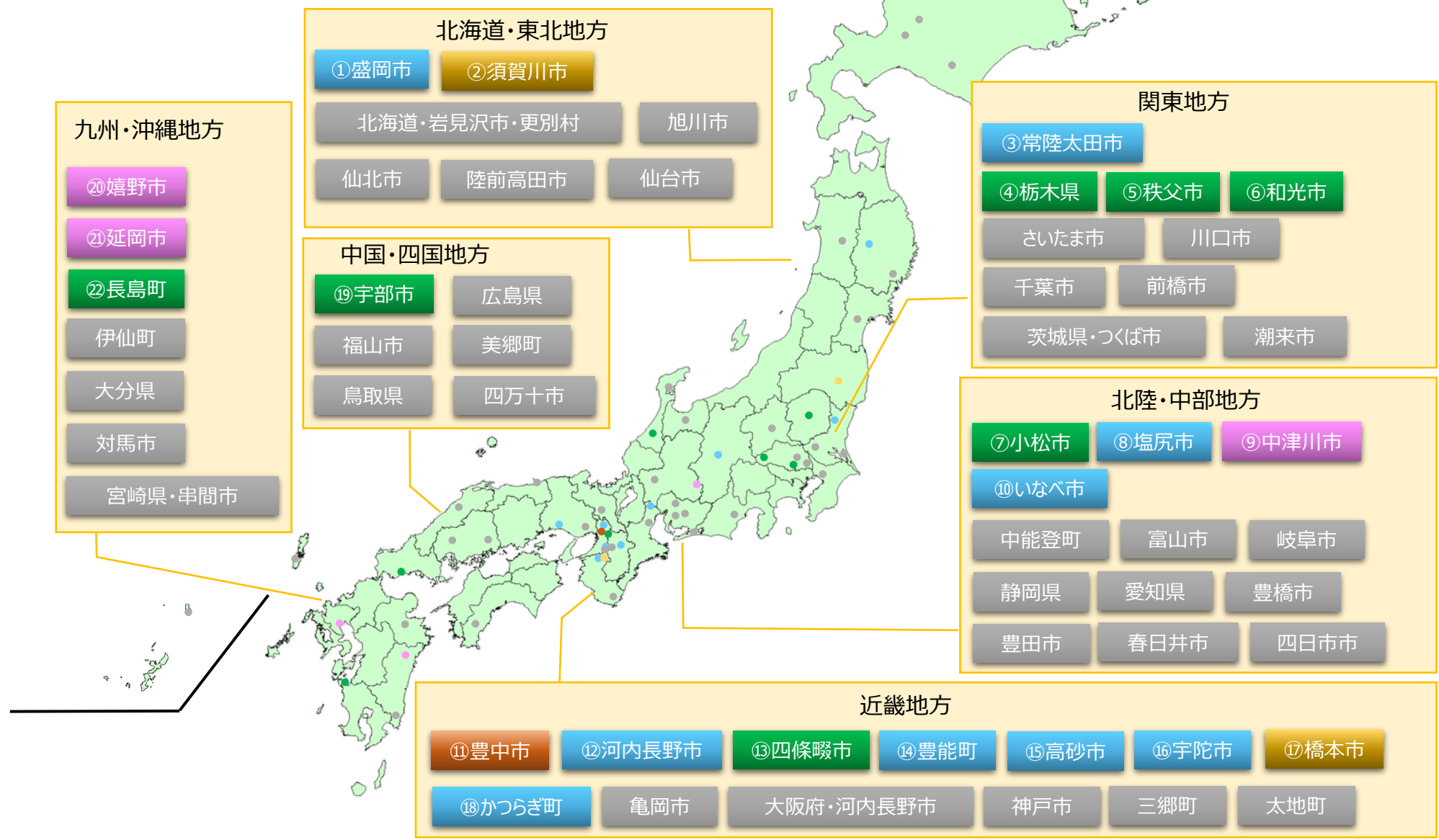
支援継続中 22団体

- R2選定
- R3選定
- R4選定
- R5選定
- R6選定

支援終了 34団体

終了

R6.6時点



地域課題・目指す将来像

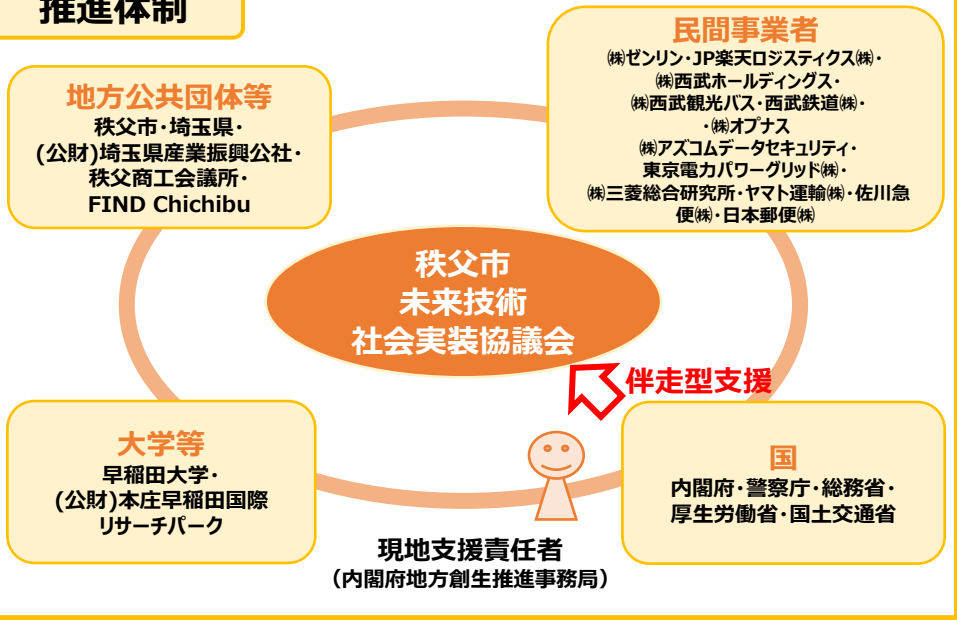
地域  
課題

- 市域に山間地を多く抱え、災害時には生活インフラが寸断されることから、物流・交通の新たなモデル構築が必要となっている
- 山間地の住民の多くが高齢者であり、今後、医療受診が困難となる状況が予想される
- 人口減少が著しく進む山間部の過疎地域における公共交通網の維持・存続が、近い将来、難しい状況にある

将来像

- 未来技術を活用し、人とモノの移動の困難さに着目した山間地域での物流・公共交通ネットワーク「秩父モデル」を構築すると同時に、複数のサービスを有機的につなげる「秩父ダッシュボード」を創生する
- 新たな事業や産業を誘致し、雇用の創出につなげて人口減少や流出を抑制し、地域の活力を生み出す

推進体制



課題解決に向けた取組

(写真：秩父市提供)

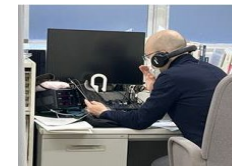
①ドローン物流事業【ドローン】

- ・ドローンを活用して日常生活用品や医薬品の配送を行い、高齢者や買い物弱者への支援を行う
- ・災害時における交通インフラ寸断の際の物資輸送のルートを確認する



②遠隔医療事業【IoT、5G】

- ・高齢者が多い山間地域での医療を確保するため、IoTや5Gなどの未来技術を活用してオンライン診療を導入
- ・地域内の医療機関との連携により、受診困難者への支援体制を構築する
- ・服薬指導についても技術実証を行い実装を目指す



③秩父版MaaS（貨物混載・EVカーシェアリング）事業【自動運転】

- ・既存の物流・交通網を生かしながら、地域住民の生活の足の維持と観光客を含めた交流人口の利便性の向上に資する域内での共同配送、貨客混載、買い物支援サービス等の構築を自動配送の技術等を織り交ぜて構築する



## 地域課題・目指す将来像

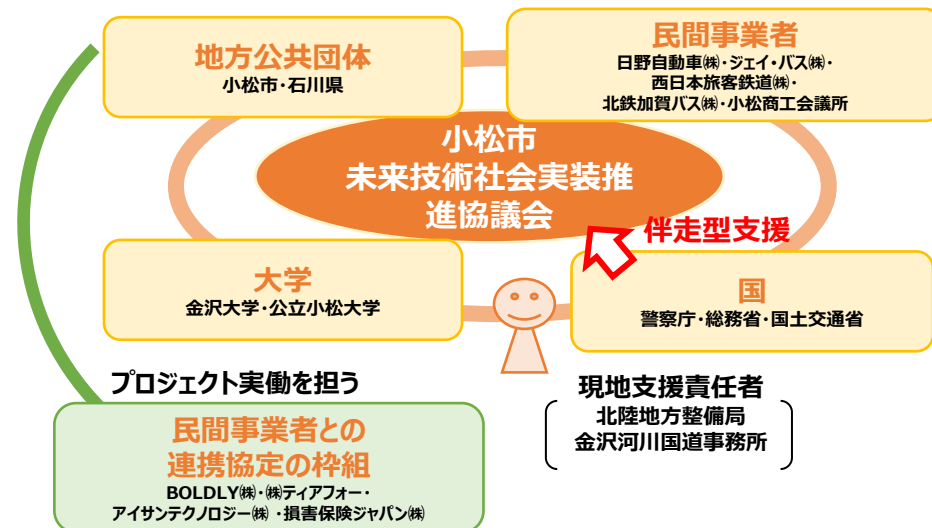
地域  
課題

- 新幹線駅と空港を併用（レール&フライト）した広域エリアへの乗継利便性向上や、まちなかへの人流拡大が重要となる一方、駅・空港間の連絡バス利用者は空港利用者数の1割未満に留まっている
- バス運転手の高齢化や人員不足に対応できる効率化・省人化された運行体制の構築が不可欠

## 将来像

- 都市目標の一つ「世界に時めく日本海側の拠点都市こまつ」の達成に向け、広域移動の拠点となる新幹線駅・空港間のアクセス環境を向上させ、北陸屈指の交通結節点としての本市の役割を拡大  
〔利便性を高めたバス運行体制構築、まちなかへの人流拡大と経済波及効果、効率化・省人化された持続可能な公共交通の実現〕

## 推進体制



## 課題解決に向けた取組

(写真・図：小松市提供)

## ① 駅-空港間シャトル 自動運転レベル2又は3による定常運行【自動運転】

- 北陸新幹線小松駅開業を第1ターゲットに、**自動運転バス**を導入し、**自動運転レベル2**での通年運行を開始
- 予定ルートでの自動運転の実現可能性を検証するため、金沢大学等との連携による実証実験を実施
- プロジェクトの実働を担う枠組みとして、民間事業者4社と自動運転バスの定常運行に向けた連携協定を締結
- 定常運行に向け、予定ルートの高精度三次元地図の作成やリスクアセスメント、**試験用車両による実証実験**を実施
- 実装用の車両を用いた長期試験走行や運行トレーニングのほか、遠隔監視の取扱い訓練を行い、2024年3月9日より**通年運行を開始**

2023年度  
長期試験走行

車両の遠隔監視

## ② 駅-空港間シャトル 自動運転レベル4本格運行【自動運転】

- 2025年以降の**自動運転レベル4**（特定条件下における完全自動運転）の実装を目指し、技術水準向上に向けた取組を継続実施
- 遠隔監視システムや仕組みづくりなど、自動運転での交通サービスに求められる体制を強化し、運転手の高齢化・不足にも対応した「**持続可能な未来型の公共交通**」として社会実装を予定

技術の高度化と  
自動運転に対応した  
運用体制確立に向け  
事業を推進

- ① 駅-空港間シャトル 自動運転レベル2又は3による定常運行【自動運転】
- ② 駅-空港間シャトル 自動運転レベル4本格運行【自動運転】

### 取組内容

(写真・図：小松市提供)

## ➤ 社会実装時の車両を用いた長期試験走行（2023年10月23日～2024年3月3日）

### 【実施主体・関係者等】

小松市、BOLDLY(株)、(株)ティアフォー、アイサンテクノロジー(株)、損害保険ジャパン(株)

### 【実証概要】

- 概要：ティアフォー製自動運転バス「Minibus」を使用し、小松駅・小松空港間の公道を走行
- 期間：2023年10月23日～2024年3月3日 午前9時～午後4時30分  
最終日に、市民や関係者向けのお披露目式を開催



### 【実証の目的】

- 社会実装時の車両を使用した各種システムの確認・調整
- 運行事業者へのトレーニング実施
- 安定的な路線バス運行に向けた体制構築

### 【成果】

- 自動運転リスクアセスメント実施、三次元地図の更新、システム調整を行い、社会実装時の車両を使用した自動運転走行（速度35km/h、自動運転レベル2）を実施
- 信号情報提供システムの安定稼働を確認
- 安定的な路線バス運行体制を構築
- 地域への自動運転の機運醸成及び理解促進

### 【見つかった課題】

- 積雪や荒天時等の環境下での安定的な運行



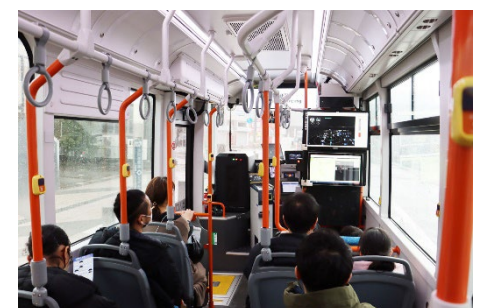
長期試験走行中の車両



自動運転システム・信号連携車内表示



未来技術社会実装事業交流会 in 小松市



自動運転バス車内の様子

① 駅-空港間シャトル 自動運転レベル2 又は3による定常運行【自動運転】

実装内容

➤ 自動運転バスの通年運行を開始（2024年3月9日～）

【運行概要】

- 概要：小松駅・空港間をつなぐ路線バスとして運行（コミュニティバス）
- 期間：2024年3月9日～（通年での運行）
- 運行体制：地域のバス事業者による運行

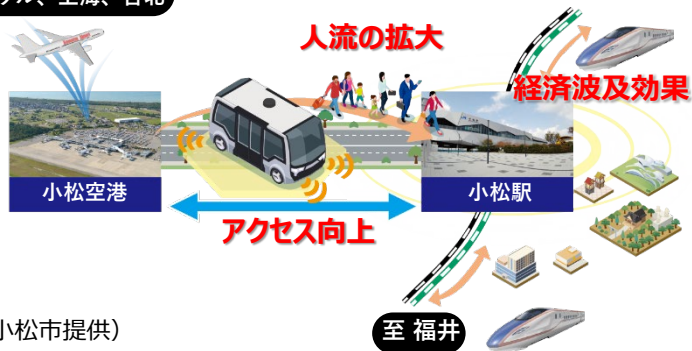
【運行ダイヤ・運賃】

- 1日5.5往復運行
- 駅・空港間を途中停留所なしで接続
- 自動運転時の最高速度 時速35km
- 当面は着席のみで運用（客席15席）
- 大人280円、小児140円
- 交通系ICカードでの支払いに対応

	小松駅 発	小松空港 発
	8:10	9:05
	9:30	9:55
	11:05	13:05
	13:30	14:05
	14:50	-
	16:20	16:50

東京、札幌  
福岡、那覇  
ソウル、上海、台北

至 金沢・富山・長野・東



(写真・図：小松市提供)



運行開始に先立ち「お披露目式」を開催



走行中の自動運転バス



車内では自動運転システムの画面を表示



日常的に観光客やビジネス客が利用



交通事業者による遠隔監視

## 地域課題・目指す将来像

## 地域課題

- 主要観光地が広範囲に点在しており、**観光二次アクセスの充実が課題**。2003年度をピークに**観光宿泊者数が減少傾向**
- 農業従事者の数は横ばいであるにもかかわらず、**農業生産額が減少傾向**にある

## 将来像

- 市が抱える様々な地域課題について、AI・ロボット技術（自動車の自動走行、ドローンの自動航行、IoT等）等の最先端技術を積極的に活用し**第4次産業革命・Society5.0を地方から実現するグローバル・イノベーションのモデルケースを構築する**

## 推進体制

地方公共団体  
仙北市・秋田県

## 民間事業者

(株)フィデア情報総研・MONET Technologies (株)東光鉄工  
(株)池田・ヤンマーアグリ  
ジャパン(株)北都銀行・(株)秋田銀行・(一社)田沢湖・角館観光協会・(株)田沢モータース・(株)インフォテック・アステリア(株)

仙北市  
未来技術  
地域実装協議会

伴走型支援

## 大学

国立大学法人  
東北大学大学院  
環境科学研究科

## 国

内閣官房・警察庁・  
総務省・農林水産省・  
国土交通省

現地支援責任者

(内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局)

## 課題解決に向けた取組

(写真：仙北市提供)

第4次産業革命・Society 5.0を地方から実現する  
グローバル・イノベーションのモデルケースの構築

- **角館地区におけるオンデマンド型配車システムの実装**：運行中のデマンド型乗合タクシーのオンデマンド化、自動走行を見据えたデータの取得
- **小型水素生成実証プラントの設計・制作**：玉川温泉水からの水素生成に係る実証実験と併せて小型プラントの設計・製作
- **観光人流データの取得**：観光人流データを取得・分析し効果的な観光戦略を立案する方策について調査検討
- **IoTを活用したスマート農業の推進**：IoTセンサーを活用したスマート農業に係る実証実験の実施
- **ドローンによる物資配送**：中山間地におけるドローンによる物資配送の実証実験の実施



育苗ハウス内に設置したIoTセンサー



ドローンによる農産物の輸送実験

## 実装内容

## AI 配車のモビリティサービス「よぶのる角館」運行開始（2022年5月17日～）

- JR東日本秋田支社と共同運営により、仙北市角館エリアで角館オンデマンド交通「よぶのる角館」を実装

**地域課題：**

角館エリアの観光スポットは、離れた場所に点在しているが、市民バスは、中心部を循環するルートがなく、本数も限られている  
新幹線などで訪れた観光客からは「不便」「駅から武家屋敷までのアクセスが悪い」などの声が上がっていた

**課題解決のための取組：**

AIによる配車サービスで目的地へ快適に移動できるTOHOKU MaaSの新しいモビリティサービス「よぶのる角館」を導入  
角館駅・武家屋敷周辺の運行エリア内において、1回300円でお好きな場所からお好きな場所まで、お客さまからの予約があったときに運行する便利なモビリティサービスを提供

**実現：**

仙北市角館エリアの更なる魅力発信と活性化に向け取り組むことで、観光と住民の暮らしの両方に貢献する地域交通の実現



## ■ 未来技術の活用相談について

・地域課題の解決に向けて、一緒に取り組んでいきませんか？ 気軽にご相談ください。

問合先：

内閣府地方創生推進事務局  
都市再生・未来技術実装担当  
☎03-6206-6175

未来技術の相談窓口はこちらから



**未来技術活用相談窓口**

未来技術とは… AI、IoTや自動運転、ドローン等

未来技術の活用を考える地方公共団体向けに

### 相談窓口 を設置します！

**困っていませんか？ 未来技術の活用について**

- 解決したい地域課題があるけど、何から手を付けたらいいかわからない…
- 活用したい技術はあるけど、具体的に何から進めていいかわからない…
- 活用したい技術について、先事例を知りたい…

**関連リンク (内閣府HP)**

- 「未来技術社会実装事業」について
- 「未来技術活用相談窓口」について

お気軽に  
ご相談ください！

← 相談はこちらから。

※ 「未来技術社会実装事業」に応募する意向がない場合にもご相談は可能です。

問合先  
内閣府地方創生推進事務局 都市再生・未来技術実装担当  
☎ 03-6206-6175